

一般国道54号(可部バイパス)建設に伴う埋蔵文化財
トンガ坊城跡発掘調査通信

とんがぼ 第1号

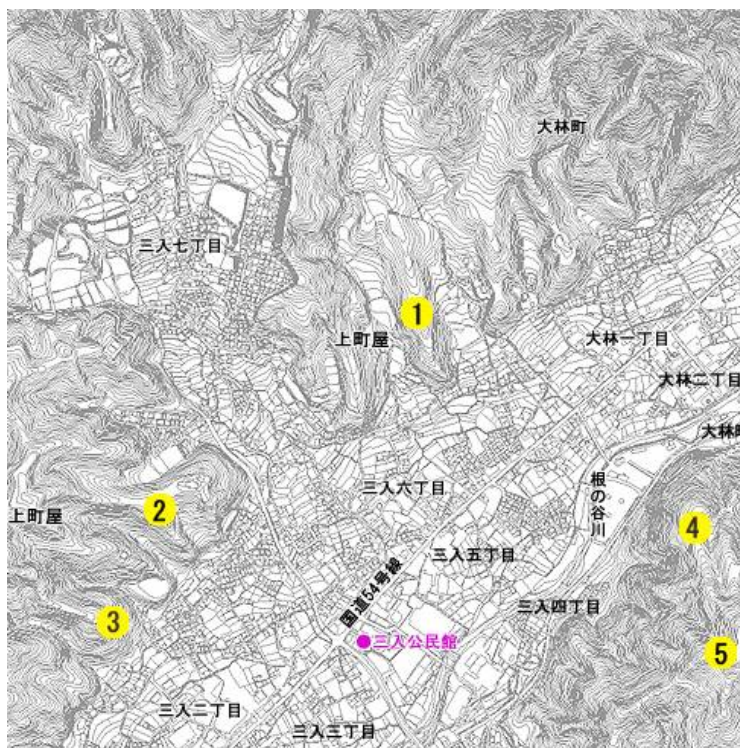
(財)広島市文化財団
文化科学部文化財課

ぼうじょうあと はくつちょうさ トンガ坊城跡の発掘調査を始めました

現在、三入 大林地区では可部バイパスの建設が進んでいますが、市道山倉線より北側区間の予定地内には、数ヶ所の遺跡が確認されています。これらの遺跡は、工事に先立ち発掘調査を行うことが必要で、その第一陣として今年度から調査が開始されるのがトンガ坊城跡です。

発掘調査は、国道交通省から委託を受け、(財)広島市文化財団文化科学部文化財課が行います。調査期間は、平成17年6月13日から開始し、平成18年度の秋ごろまでを予定しています。

トンガ坊城跡の発掘調査は、三入 大林地区でははじめての本格的な発掘調査です。今後は調査の最新情報を、この「とんがぼ」紙面で、お伝えしてゆきます。果たして何が発見されるのか、調査の成果にご期待下さい!



遺跡とは?

村や墓地、役所や城など、昔の人々の様々な活動の跡を遺跡といいます。

トンガ坊城跡と周辺遺跡

トンガ坊城跡 門田城跡 山根城跡
二遍山城跡(三遍山城跡) 王子城跡

トンガ坊城跡とはどんな遺跡？

トンガ坊城跡は、「山城」の跡と考えられています。

山城とは、文字通り山の上に築かれ、斜面を削ったり、土を盛るなどして様々な防御施設を設けた「砦^{とりで}」です。おおむね室町時代^{むろまちじだい}から戦国時代^{せんごくじだい}（1300年代～1500年代前半）にかけて全国各地で造られており、三入大林地区でも多数確認されています。

トンガ坊城跡についての記録は、全く残っていません。発掘調査によって、誰が、いつ、どのような目的で築いたのか、そして当時の三入・大林地区がどのような状況にあったのかを考えるヒントが発見されるかもしれません。

また、今回の調査に先立って行われた試掘調査では、山城よりもさらに1000年以上も古い弥生時代（約1,800年前）の土器や、古墳時代の須恵器（約1,500年前）のかけらなども見つかっており、これらの時代の遺跡も残っているのではないかと期待されています。



空から見たトンガ坊城跡

平らな面や、斜面の溝状の落ち込みが、山城の施設の一部と考えられています。

トンガ坊城跡発掘調査に関するお問合せ
財団法人広島市文化財団文化科学部文化財課
広島市東区光町二丁目15番36号 TEL082-568-6511
ホームページ <http://www.mogurin.or.jp>
発掘調査現場直通 090-6433-6743

現場の見学できます！ただし、深い穴や溝が多数あり、大変危険ですので、調査作業が行われていない時はご遠慮ください。